

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2023-003
2.研究課題名	飲料水を摂取している時のおいしさ判断と脳活動の関連性
3.研究期間	令和5年 6月（倫理審査委員会承認後）～ 令和6年 3月31日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） （１）研究目的 我々はこれまで食物の中身は同一でも、パッケージや商品の色などの見た目を变えただけで感じられる味が異なることを実験により見出した。一方実生活では最近水の味について論じられることが多くなってきた。水道水は臭く、不純物が多いイメージであるが、ブラインド（水道水と知らずに飲んだ場合）では、おいしく感じられるが、オープン（水道水と知って飲む場合）では美味しく感じられないと一般的に信じられている。 また、市販のミネラルウォーターでも、元は湧き出る自然水であるにも拘らず、様々なパッケージングや周辺情報を与えられることによって、商品へと昇華する。 そこで、本研究では、パッケージや周辺情報などの文脈要因によって、水の味が変化することを官能評価及び生理データによって確認することを目的とした。 （２）研究を実施することの意義、必要性 本研究の結果から、人の食物認知及び食物の価値評価の仕組みが理解できる心理学的成果を得ることに加えて、より商品の価値を高める情報についても理解することができるマーケティング的成果を得ることもできる。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 心身ともに健康な日本人で、10~60代の男女、20名を対象とする。対象者は地域新聞等で募集した一般の方々を予定する。また、実験参加時に、味覚や嗅覚が正常であること、投薬などを受けていないこと、発熱などの体の違和感がないことなどを書面で確認する。対象者の接遇については共同研究を実施する企業側が責任を持つて行う。 近赤外光イメージング装置（NIRS: Shimadzu FOIRE-3000）を脳活動計測に用い、視覚および味覚刺激を認識しているときの脳活動（前頭前野）を計測する。用いる刺激は日常生活で飲食するものであるが、不快感などが生じた場合には実験をすぐに中断する。すべての情報は連結可能な形で匿名化される。実験には1時間～1.5時間を要するが、実際の計測時間は30分以内である。実験参加にあたる謝礼は1000円の図書カードとする。

	問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」倫理審査委員会事務局（022-795-6003；art-syom@grp.tohoku.ac.jp）
--	--

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）